

つねに時代の先へ新技術と新発想でお応えいたします!

e-pile next

某)自動車整備工場 新築工事

「土壌汚染地盤における」e-pile next工法 施工事例

本計画地は千葉県のはぼ中央となり北西から南西側に広がる東京湾近くに位置しております。敷地状況は原位置の地盤調査結果から表層(GL)よりー2.5m付近までの盛土部分に土壌汚染が確認されたため、杭の打設時に於ける他所への拡散・流出の影響を防ぐ対策が課題となりました。

今回、土壌汚染物質の拡散・流出を防ぐために新に加えた手法は、三点式杭打機の相伴により、先行でケーシングチューブを貫入させ、スクリーによる孔内削孔、汚染土の排出後に、鋼管杭(e-pile next)を打設、流動化処理をした安定土により埋め戻し、最後にケーシングチューブを引き抜くことの対策施工といたしました。

この施工法を実践したことで、上記課題を全て解決することができ、安心いただける施工品質をご提供することができました。尚、本対策施工につきましては、元請会社様を初め連携した各専門の協力会社様の力強い、ご支援ご協力をいただき、スムーズ且つ安全に完工することができました。

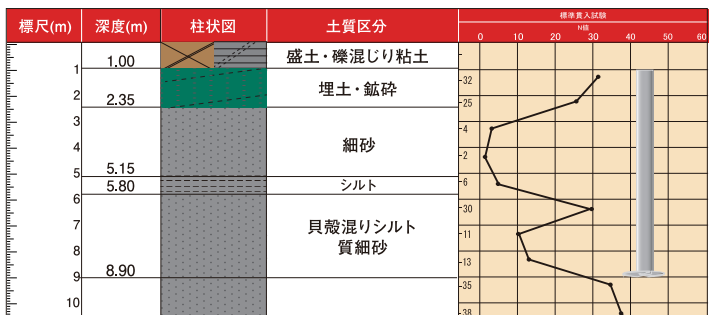
☆ご採用いただき、誠に有り難うございました。



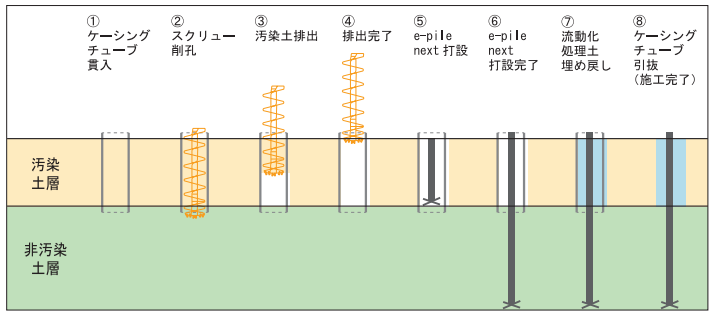
工事概要

工事名	某)自動車整備工場新築工事	杭径	φ267.4mm
施工地	千葉県木更津市	拡翼径	Dw 850mm・Dw 750
用途	自動車整備工場	深度	SGL -9.6m
構造	鉄骨造(S)	支持力	635kN・510kN
工期	2019年1月25日~2019年2月15日	本数	46本・42本

ボーリング柱状図



施工手順

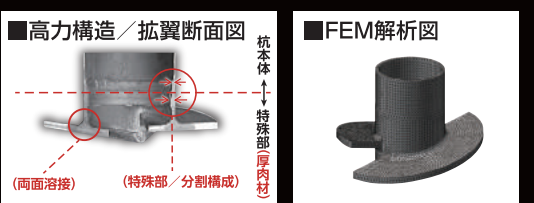


公共土木・公共建築での活用拡大
 国土交通省「NETIS」

- 登録番号: KT-160071-A
- 国土交通大臣認定
 - TACP-0483 砂質地盤(礫質地盤含む)
 - TACP-0484 粘土質地盤
- 日本建築センター
 - BCJ評定-FD0540-01 砂質地盤
 - BCJ評定-FD0541-01 礫質地盤
 - BCJ評定-FD0542-01 粘土質地盤
- 基礎評定(引抜支持力)
- 日本環境協会
- エコマーク認定 08 131022号

■ 全ての鍵は杭先端にあり
 杭基礎は建物荷重を支持地盤へ伝達させる最も重要な役割であり、故に、杭先端拡翼部の貫入(掘削)性、変位・変形・破断などを発生させない高い性能が要求されます。

■ 貫入性の問題を・・・「**菱型穴**」により解決しました。
 ■ 拡翼変形の問題を・・・「**特殊部**」により解決しました。
 ■ コストの問題を・・・「**自社施工**」により解決しました。



建築・土木・鉄道、さまざまな場面で活躍しております。

検索 e-pile



「中小企業海外展開支援施策集」を改訂しました。

中小企業庁では、中小企業の皆様が海外展開に関する支援施策をご利用になる際の手引書として、毎年「中小企業海外展開支援施策集」を作成しています。この度、平成31年度版として新たに改訂し、海外展開に関する支援施策として127の施策をまとめました。主に下記のような内容が記されています。

【支援施策内容】

(1) 知る・調べる

- 海外展開に関するセミナーに参加したい
- ・ セミナー講習会
- ・ 中小企業海外セミナー
- ・ EPA(経済連携協定)活用セミナー 等
- 情報収集したい
- ・ 新興国等知財情報データバンク
- ・ 国・地域別情報
- ・ 貿易実務オンライン講座 等

(2) 計画する・準備する

- 海外展開の専門家に相談したい
- 事業化に向けて調査したい・計画を立てたい
- 海外展開に向けて製品開発・試験販売、ブランディングしたい
- 知的財産に関するサポートを受けたい

(3) 海外に進出する

- 国内で海外への販路を開拓したい
- 海外で直接販路を開拓したい
- 海外リスク対策に取り組みたい
- 海外進出時・進出後にサポートを受けたい
- 資金回収・訴訟等のリスクに備えたい
- 資金を調達したい
- 海外での知的財産に関するサポートを受けたい



海外展開実現までのステップに合わせて段階的に施策を紹介していますので、ぜひご利用ください。

※詳細は中小企業庁のHPをご覧ください。

ワンポイント **健康コラム**

健康的なリフレッシュを!



新緑がまぶしい5月を迎えました。新年度のあわただしさも少し落ち着いてきたころでしょうか。その頃になるとよく聞くのが、みなさんご存知の「五月病」です。

なぜ五月病になってしまうのか。

知らず知らずのうちに抱えていたストレスが、ゴールデンウィークで緊張の糸が切れることで一気に重くのしかかってくる。それにより、五月病の症状が起きてしまうといわれています。環境が変わると、人間は自分でも気付かないうちに肉体的・精神的な疲労を蓄積させてしまうことがあるということです。

五月病にならないために気をつけたいこと。

誰にでも発症の可能性がある五月病ですが、予防のために心がけたいポイントと予防法を3つご紹介します。

1. ストレスを溜めないようにする。

環境が変わると、人は無意識のうちに適応しようとします。「まずは馴染まなきゃ…」という意識が働き、知らず知らずのうちに自分の意見を飲み込んでしまっているということもあるものです。

● 悩みを人に話す
話しても解決しないから…と思わずに親しい友人や家族に、胸の内を話してみよう。話すことで、案外気持ちが落ち着いたりするものです。

2. 張り切り過ぎないようにする。

転職したり、異動したりすると、「早く活躍しなければ…」と肩に力が入ってしまいがちです。スタートダッシュは大切ですが、飛ばしすぎるとガス欠してしまいます。

● 音楽を聞いたり、スポーツをする。
ストレスを溜めこまないためには、**適度な気分転換が大切**になります。好きな音楽を聞いてリラックスをする、汗を流して気分をすっきりさせるのは、とても有効な方法と言えるでしょう。

3. ゴールデンウィークの過ごし方に気をつける。

仕事を忘れてリラックスする時間を過ごすことと並行して、生活のバイオリズムを崩さないようにすることが大切です。

● 生活習慣の乱れに気を付ける
徹夜で遊ばない、寝だめしない、バランスのいい食事をとる、などを実践することが大切です。

以上が五月病に関する解説です。参考してみてください。GWまでに難解な業務は片づけておく、目安をつけておくということも有効です。また、五月病になっているのに自分では気付いていない人がいるかもしれません。「ゴールデンウィーク以降様子がおかしい」と思ったら、積極的に声をかけるなどして、ストレスを解消できるようにサポートしたいですね。



経理マンが行く

新元号

新年度も始まり、新年号も決定し、新しい時代の幕開けとなりました。

令和の時代が素晴らしい時代になれるよう、努力したいです。さて、新年度になり、新卒者の方々が就職される時期でもあります。朝起きてお腹の調子が良くないなんて事はありませんか？

辛い腹痛は仕事にも影響が出ます。今回は「腸内環境」のお話です。みなさんはご自身の便についてチェックしているでしょうか？

排便時に、便の状態を確認することは、自分自身の健康状態を把握するために特に役立ちます。腸は、食道、胃に続く消化器の一つで、小腸、大腸に分かれています。これらの消化器から、私たちは食べた物に含まれている水と必要な栄養素を吸収し、残ったものを便として排泄しています。理想的な良便は、いきまずにストンと出る黄色、または黄色がかった褐色です。便は腸に長くどどまるほど硬くなります。また、黒っぽい色で悪臭がある便は、腸内環境のバランスが悪くなっている状態です。腸内環境が悪くなっていると、便秘や下痢など「お腹の不調」が起こります。腸内には約1000種類、100～1000兆個の細菌が住みついてるともいわれ、多種多様な菌の様子が花畑のようにみえることから「腸内フローラ」とも呼ばれています。この腸内細菌には、腸によく働きをする善玉菌と、腸内で有害物質をつくる悪玉菌、どちらかの優劣な方に味方する日和見菌がいます。腸内に生息している細菌の種類は、人によって全く異なり、食べるものや生活習慣、加齢、ストレスなどによっても変化します。健康的な腸内環境は、ビフィズス菌や乳酸菌などの善玉菌が優勢で、腸内を弱酸性に保ちます。腸内が酸性に傾くと、悪玉菌が増殖できなくなり、有害物質が作られなくなります。また、悪玉菌には悪いイメージがありますが、肉類などのたんぱく質を分解し、便として排泄するという大切な働きをしてくれる、必要不可欠な存在でもあります。私たちの腸では、毎日のように善玉菌と悪玉菌の勢力争いが起こり、腸内フローラのバランスが変化しています。

私たちの腸は、体を病原菌やウイルスから守る「腸管免疫」という免疫システムを備えていて、腸内環境はこの免疫システムにも影響する為、病気に抵抗する免疫力を高めるためにも、**善玉菌を増やし、腸内環境を良好にすることが大切です**。食べたものに大きく左右される腸内環境ですので、食生活には注意が必要です。

善玉菌を増やす方法は二つあり、(ロ)ビフィズス菌や乳酸菌を含むヨーグルトや乳酸菌飲料、納豆、漬物などの発酵食品などを、毎日食べること。(ハ)オリゴ糖や食物繊維を摂ること。オリゴ糖や食物繊維の成分は、消化・吸収されることなく大腸まで達し、善玉菌のえさになって、菌の量を増やしてくれます。オリゴ糖は大豆やたまねぎ、ごぼう、ねぎ、にんにく、アスパラガス、バナナなどに多く含まれます。また適度な運動は、腸内の便の動きをサポートしてくれます。便を送り出すためには、腹筋や、体の深部にある腸腰筋が後押ししてくれるので、ウォーキングなど下半身の運動を増やす心がけましょう。

エレベーターを使わずに階段を使ったり、いつもより遠い店まで歩いて買い物に行ったり、一駅手前で電車を降りて歩いたり、ちょっとした行動を変えてみると、運動量を増やすことができます。

また、十分な睡眠や朝食を摂ることで、腸内のリズムが整います朝の目覚めに一杯の水や白湯を飲むと、大腸の反射を促すことができるのでおすすめです。身体の内側から元気になると、気持ちも変わります。腸内環境を整えて、病気に強い身体を作りましょう。